

2022年度全日本吹奏楽コンクール 課題曲 Horn ワンポイント・アドバイス

吹部
Navi

I やまがたふあんたじい～吹奏楽のための～

作曲：杉浦 邦弘

この曲は1小節に音符1つだけの小節が多いですが、息を奥まで入れるようにして、響きのある音で吹きましょう。同じフレーズの繰り返しでも強弱がそれぞれ違うので、しっかり差をつけてください。

- 49小節目：1st のゲシュトップは埋もれてしまわないように、発音を少し目立たせて吹きましょう。
- 52小節目：一音ずつのピッチを確認しましょう。特に57小節目は、ひとつ前の C の音から続けて吹いて G に上がった時のピッチを合わせていきます。スラーの跳躍は次の音の息やアンブシュアの準備を、音を変えたいタイミングより少し早めにしておく方が良いです。

II マーチ「ブルー・スプリング」

作曲：鈴木 雅史

グリッサンドが多く出てくるマーチなので、どの音域でもきちんと鳴らせるようにしましょう。例えばB♭のグリッサンドの場合、二音間に入る倍音すべて(チューニング B♭→D→F→A♭→B♭ ※B♭管で演奏)を一音ずつスラーで練習し、その時のアンブシュアの動きをグリッサンドの時も再現するように演奏してみてください。裏打ちは息の流れが止まらないように注意しながら、ハーモニーの役割も意識して練習しましょう。曲に出てくる3つの調のスケールとカデンツを、パート練習のはじめに合わせておくことと曲の中でのハーモニーも合わせやすくなると思います。(例 JBCバンドスタディ p.32)音の長さや処理もパートで揃えて演奏出来るとスッキリ聞こえてきます。

III ジェネシス

作曲：鈴木 英史

それぞれのアーティキュレーションをしっかりと確認して(特にスラーの位置)、楽譜通りの吹き方を身につけていきましょう。アクセントは舌に力が入りすぎると発音が強く、音程が分からなくなってしまうので和音をついていることを意識した音の長さや響きで吹きます。[C]と[F]は同じシンクペーションのリズムですが、発想記号や強弱が違うのでその違いを工夫してみてください。

- 17小節目：1st は他の木管楽器とは少し違う独立した動きであることを意識しながら、発音の瞬間の息を多めに入れてそのあとは抜くように *leggiero* を表現しましょう。

IV サークスハットマーチ

作曲：奥本 伴在

テンポの速いマーチですが、16分音符が2つ並んで出てくるところは息の流れが止まらないようにして、特に、1つ目の16分音符が弱くなっていないかを確認してみてください。1小節目1～2拍目のリズムが多く出てきますが、4分音符だけが強くなりやすいので頭の8分音符からしっかり息を入れて鳴らしていきましょう。

- 32小節目：ダブルタンギングで演奏するのがおすすめです。Tu と ku などの2種類のシラブルを交互に使います。(JBC p.25 参照)舌の動きも大切ですが、息が減衰しないように気をつけて練習しましょう。

V 憂いの記憶－吹奏楽の為の

作曲：前川 保

強弱の幅が広く書かれた曲なので、その差を大きく魅せられるようこだわって練習していきましょう。ゲシュトップやミュートの部分はピッチにも気をつけてください。ゲシュトップは通常F管で半音下の運指を使いますが、それ以外でピッチの取りやすい運指がある人はそちらを試してみてください。1st と 2nd, 3rd と 4th で一緒に動きが多いので、まずはその2パートでしっかり合わせてから4パートで練習してみましょう。

- 12小節目：お互いを聴きすぎないようにしながら、2パートで合う拍(3拍目)を意識して吹いてみてください。mf の場所がそれぞれ違うので、それが際立つようお互いのパートの強弱を変えていきましょう。
- 80小節目：チューバを聴いて、5連符の最後に入るように練習しましょう。チューバの5連符の4つ目は休符になっているので、それを意識してリズムをとってみてください。